医療費は高校生まで無料に

平　由子（ゆうこ）　議員

問　福島などでは、子どもの健康状態把握のため、検査をして甲状腺がんを発見。最先端の技術を駆使しながら助かってもらいたい。保険を適用し、高校生まで医療費を無料に。

市長　ゼロ歳から小学校6年生までの外来医療費と、中学3年生までの入院の医療費を助成している。

取手市では、マル福制度とは別に、中学生の外来医療費助成や所得制限によりマル福の制度を受けられない小学6年生までの医療費助成をぬくもり医療支援事業として行っている。また、医療費助成は、平成26年、中学3年生まで拡充した。

医療費の助成は、県下統一された制度で実施されることが望ましいと考え、マル福の拡大を要望している。

健康福祉部長　がん免疫療法薬、遺伝子治療が保険診療を認められていないのは、厚生労働大臣が設置する専門家会議において許可されていないと判断している。

8月に開所した取手市防犯ステーション

充実を！安全・防犯対策

石井　めぐみ　議員

問　8月に取手市東に防犯ステーションが開所した。これまで藤代駅周辺に交番設置を求める要望や質問をしてきた。防犯ステーションの今後の計画は。

副市長　設置効果の検証を踏まえ、検討していきたい。

問　藤代地区でも警察官OBやスクールガードなど地域の方々の役割を理解し、市民とともに進めてほしい。

総務部長　考えていきたい。

問　小中学校への防犯カメラ設置促進を。

教育部長　全小学校に緊急非常通報システムを導入している。これに代わるもの、補うものを検討している。

問　通学路安全点検後の危険箇所への対応は。

学務給食課長　すぐに対応できるもの、予算が必要なものなど検討し、優先順位を決めて実施。

総務部長　設立時に1団体5万円を補助している。

安全安心対策課長　取手市防犯連絡協議会から提供することもある。

国道294号線　白山八丁目交差点

稲小通学路工事を万全に

渡部（わたなべ）　日出雄（ひでお）　議員

問　稲小通学路の拡幅工事が始まったが、事故が発生しないよう安全対策を求める。登下校時などの安全対策を伺う。

建設部長　作業時間は9時から17時まで。全面通行禁止とし、自転車、歩行者の通行帯を設ける。また、交通誘導員も配置する。夜間、休日は工事箇所にバリアを張り、安全確保に努める。

問　中央タウンの稲小防犯パトロールチームへの事前説明がなかったと聞くが。

建設部次長　代表者と調整させていただいた。

問　取手郵便局横の旧県道改良工事はどうなるのか。

答　郵便局前の現在の信号が廃止され、新しい丁字路に移設する。現在、工事を発注した。

危機的状況…取手市の子どもの貧困

池田　慈（めぐみ）　議員

問　取手市の子どもの貧困率は、危機的な状況と考える。市が実施している子どもの貧困対策は。

健康福祉部次長　生活困窮者への自立相談窓口を開設。世帯主が職を失った際の住宅支援、貸し付けなどある。また、子どもに対しては学習支援を考えている。

問　全国学力テストの結果と世帯収入を見ると、収入が多い世帯の子どもほど学力が上がっている。要保護、準要保護世帯への就学援助が十分でない。

学務給食課長　取手市は所得を基準として対象にしているため、収入を基準としている自治体よりも対象となる割合を高くしている。

問　周知も足りない。

答　新たに子育て支援課に児童扶養手当の現況届を提出いただく際、窓口にて説明していく。また、ホームページの改善も検討する。

問　桜が丘小子どもクラブは1部屋しかない。改善を。

教育部長　何とかしたく、余裕教室等での対応を検討。

問　学習アドバイザーを各クラブに1人の配置を。

答　検討したい。

正規職員保育士の増が待機児童ゼロに

加増（かぞう）　充子（みつこ）　議員

問　待機児をゼロにしていくためには、正規職員の保育士を増員しなければ解決しない。

健康福祉部長　正規職員だけ増やせば解決するものではない。全国的に保育士不足が根本にある。また、子育て支援制度によって保育条件が緩和され、申込者が急増している状況もある。

問　待機児をこのまま放置せず、即、入れるような体制を取るべき。

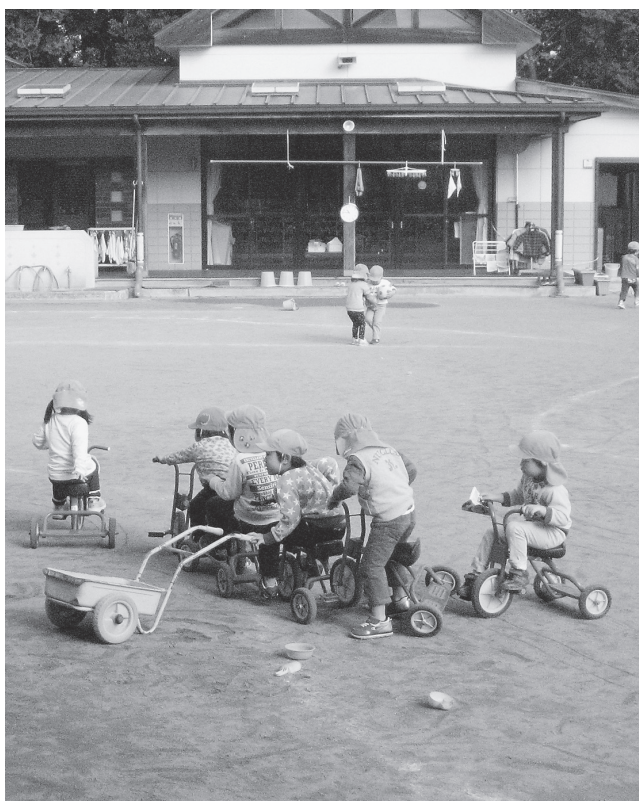
答　いろいろな方法を今、講じている。

問　吉田、舟山保育所を旧一中跡地で統合するのは尚早である。保護者の声を聞いたか。

子育て支援課長　保護者説明会を行い、反対の意見はなかった。

問　問題山積の戸頭（とがしら）東保育園。民営化法人の評価を見誤った責任は取手市にある。その失敗を検証せず法人の移管替えでは同じ過ちを繰り返す。直ちに公立に戻せ。

健康福祉部長　公立には戻さない。選定委員会でしっかり審査して移管する。


白山保育所